

六条大麦奨励品種「シンジュボシ」

古川農業試験場

1 取り上げた理由

宮城県における六条大麦は、転作作物の基幹作物目として作付けされており、なかでも「ミノリムギ」については比較的安定多収であることから、基幹品種として長く栽培されてきた。しかし、「ミノリムギ」は、近年気象変動の影響もあり硬質麦等が発生し品質の評価が変動するようになってきた。本県産麦の品質評価の一層の向上を図るため、硬質麦の発生が少なく、搗精白度、炊飯白度が高い「シンジュボシ」を本県の奨励品種とし、普及技術とする。

2 普及技術

1) 来歴

六条大麦「シンジュボシ」は、早生・多収、耐寒雪性、良質を育種目標に、東北農業試験場（現在の独立行政法人 農業技術研究機構 東北農業研究センター）において、「東北皮30号」を母とし、「シュンライ」を父として、1991年に人工交配し、その後代から選抜・育成された系統である。

1998年から「シンジュボシ」の系統名で宮城県に配布され奨励品種決定調査に供試し、検討されてきたものである。

2) 特性の概要

- a 出穂期、成熟期は「ミノリムギ」よりやや早い“中生の早”である。
- b 稈長は「ミノリムギ」と同程度である。
- c 耐倒伏性は「ミノリムギ」よりわずかに弱い、“やや強～中”である。
- d 収量性は「ミノリムギ」と同程度である。
- e 硝子率は「ミノリムギ」より低い傾向にある。（硬質麦の発生が少ない）
- f 搗精白度、炊飯白度とも「ミノリムギ」より高く、食味も優る。
- g なお、本県の早生品種「シュンライ」と比較すると、稈長は長く耐倒伏性はやや弱いだが、硝子率は低く、炊飯白度が高く、食味が優る。

3) 対象地域等

- a 普及見込み地帯
西部丘陵、及び山間高冷地帯を除く県下一円
- b 普及見込み面積
300ha

3 利活用の留意点

- 1) 凍上害及び寒雪害の発生を防止するため、播種適期を厳守するとともに、排水対策の徹底と鎮圧作業を励行する。
- 2) 稈長は「ミノリムギ」と同程度の長稈で、やや倒伏しやすいので、多肥栽培は避ける。
- 3) 硬質麦の発生を防ぐため、播種適期を厳守するとともに、追肥は減数分裂期までとする。

（問い合わせ先：古川農業試験場 水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

麦類奨励品種決定調査 古川農業試験場水田利用部 平成11～13年
 農業センター農産部 平成10～11年

2) 参考データ

表1 特性一覧

系統名	東北皮34号			交配組合せ東北皮30号/シュンライ			
育成地	独立行政法人 農業技術研究機構 東北農業研究センター						
調査地	宮城県古川農業試験場			宮城県農業センター			
調査年次(播種年)	1999～2001年			1998～1999年			
系統名・品種名	シンジュボシ標準)ミルムキ 比較)シュンライ			シンジュボシ標準)ミルムキ 比較)シュンライ			
早晩性	中生の早	中生	早生	中生の早	中生	早生	
出穂期(月日)	5/1	5/3	4/28	4/27	4/28	4/24	
成熟期(月日)	6/8	6/10	6/6	6/5	6/7	6/5	
稈長(cm)	98	97	87	104	104	94	
穂長(cm)	3.9	4.2	3.7	4.6	4.8	4.5	
穂数(本/m ²)	514	487	449	545	637	540	
芒の長短	やや長	長	-	-	-	-	
株の開閉	開	中	閉	-	-	-	
穂発芽性	やや難	やや易	-	-	-	-	
脱粒性	やや易	やや易	-	-	-	-	
秋播性程度	-	-	-	-	-	-	
原 麦	千粒重(g)	40.2	35.5	37.9	34.6	29.3	33.2
	容積重(g/L)	650	648	658	640	634	630
	標準比率	100	(100)	102	101	(100)	99
子実重(kg/10a)	605	571	492	574	568	564	
	標準比率	106	(100)	86	101	(100)	99
外観品質	中の上	中の上	中の上	中の上	中の中	中ノ中 ～中の上	
硝子率	25.9	30.3	29.0	-	-	-	
耐病性	小さび病	中	中	-	-	-	
	うどんこ病	やや強	強	やや弱	-	-	
	赤かび病	中	中	やや弱	-	-	
凍上害抵抗性	強	強	-	-	-	-	
耐寒性	中	中	-	-	-	-	
耐雪性	やや弱	やや弱	-	-	-	-	
耐倒伏性	中	やや強	強	やや強	やや強	強	

注1) 印は、育成地及び特性検定地における評価を用いた。

表2 品質評価結果

場所名	系統、 品種名	播種年次	55%搗精麦			アロ-ス 含量 %	炊飯後の食味官能評価							炊飯 白度 %	炊飯 黄色 程度
			白度	黄色 程度	外観 品質		縦溝の 目立つ 程度	色	光沢	粘り	かたさ	味	合計		
宮城県古川 農業試験場	シンジュボシ	1999	44.9	1.3	4.0	-	0.0	1.3	0.0	-0.3	0.3	0.0	1.3	38.6	0.0
	ミルムキ	～	41.5	1.8	5.3	-	-0.5	-1.3	-0.5	-0.8	-0.5	-0.5	-3.5	34.5	1.0
	シュンライ	2000	42.4	1.5	4.8	-	-0.5	-0.3	-0.5	0.0	0.5	0.0	-0.3	36.2	0.3
宮城県 農業センター	シンジュボシ	1998	42.9	1.0	3.5	26.9	0.5	1.8	0.5	0.5	0.5	0.0	3.8	40.4	0.0
	ミルムキ	～	43.9	2.5	5.0	27.5	-0.5	-0.8	-0.5	0.0	-0.5	0.0	-2.3	33.7	2.0
	シュンライ	1999	44.9	1.5	3.8	28.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.3	0.0	1.3	36.9	1.0
平均	シンジュボシ	1999	43.9	1.2	3.8	-	0.3	1.5	0.3	0.1	0.4	0.0	2.5	39.5	0.0
	ミルムキ	～	42.7	2.0	5.1	-	-0.5	-1.0	-0.5	-0.4	-0.5	-0.3	-2.9	34.1	1.3
	シュンライ	2000	43.7	1.5	4.3	-	-0.3	-0.1	-0.3	0.5	0.4	0.0	0.5	36.6	0.5

注1) 東北地域麦類品質連絡試験結果による

- 2) 55%搗精麦及び炊飯の白度は、白度計Kett C-300で測定
- 3) 55%搗精麦及び炊飯の黄色程度：0(無)～5(甚)
- 4) 外観品質：1(上上)～9(下下)
- 5) 縦溝の目立つ程度：3(少)～0(並)～-3(多)
- 6) 食味官能評価：3(良)～0(並)～-3(不良)
- 7) 食味官能評価は、岩手県産べんげいむぎを標準とした

3) 発表論文等

平成14年度東北農業研究成果情報